

第8回生駒市総合教育会議 会議録

1 日 時 平成28年6月16日(木) 午前10時～午前10時35分

2 場 所 生駒市役所 403・404会議室

3 協議事項

- (1) 教育大綱の策定について
- (2) その他

4 市側出席者

市 長 小 紫 雅 史 副市長 山 本 昇

5 教育委員会側出席者

教育長 中 田 好 昭
委員(教育長職務代理者) 山 本 吉 延 委員 飯 島 敏 文
委員 上 田 信 行 委員 寺 田 詩 子
委員 神 澤 創 委員 浦 林 直 子
委員 坪 井 美 佐 委員 レイノルズあい

6 関係職員及び事務局職員出席者

教育振興部長	峯 島 妙	生涯学習部長	奥 畑 行 宏
教育振興部次長	真 銅 宏	教育総務課長	辻 中 伸 弘
教育指導課長	吉 川 祐 一	学校給食センター所長	奥 田 茂
こども課長	前 川 好 啓	こども課指導主事	松 本 陽 子
こども課指導主事	上 田 直 美	子育て支援総合センター所長	辻 本 多佳子
生涯学習課長	西 野 敦	図書館長	向 田 真理子
スポーツ振興課長	吉 岡 秀 高	教育総務課課長補佐	藤 本 清 夫
教育指導課課長補佐	城 野 聖 一	こども課課長補佐	後 藤 治 彦
生涯学習課課長補佐	清 水 紀 子	図書館南分館長	錦 好 見
図書館北分館長	中 谷 知 子	スポーツ振興課課長補佐	西 政 仁
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	松 井 恵

7 傍聴者 5名

○開会宣告

○協議事項

(1) 教育大綱の策定について

- ・パブリックコメント及び市議会市民文教委員会での意見を踏まえた修正について
(質疑) なし

- ・パブリックコメントでの意見に対する市の考え方の内容確認について

坪井委員：いじめに関して、大綱4ページには「いじめを許さない学校づくり」とあるが、いじめが発生する前に予防することが重要であり、各校でもいじめ防止に尽力されている。いじめを生む前からの環境づくり・ひとづくりが大切であるという考えから、パブリックコメントのご意見にもあるように、「いじめを生まない学校づくり」とするのが良いと思う。

小紫市長：「いじめを許さない」という表現の中に発生予防の意図も見えるという捉え方もあるが、予防のために心を砕くことの大切さを強調するという意味で、坪井委員のご意見も理解できる。

レイノルズ委員：「いじめを許さない学校づくりをはじめ、」に続く「個々人の違いや多様性を理解し、認め合うための具体的な学びの機会を確保し、人を思いやる優しい心を育成します。」が実行されれば、いじめを生まない心が育まれると思う。実際に起こってしまういじめに対して、「許さない」という厳しい言葉をあえて使うのは良いと思う。文章全体としてみれば、今のままの表現で坪井委員のご意見も加味されており、バランスが取れていると思う。

飯島委員：そもそもいじめという現象は、発生してから初めてそれがいじめであると分かる。レイノルズ委員のご意見のように、「いじめを生まない」ということについては文章の後半で表現が尽くされている。いじめになる可能性のある事象を発見したら見逃さないという強い姿勢を示す意味で、「許さない」という表現のままで良いと思う。

寺田委員：いじめは3～5歳児の中でも芽生えがある。例えば、砂場遊びをするときにいつも水運び役をしている子がいるなどである。そのようなときに、教師の「いじめを許さない」目が大事であると思うので、このままの表現で良いと思う。

小紫市長：非常に意義のある問題提起であった。それでは、委員からのご意見をまとめると、文章全体として「いじめを生まない」という意図が読み取れるため、原案のとおり表現とする。

ほかに、資料1にある「市の考え方」についての意見などはあるか。

寺田委員：市民文教委員会での意見については議論の対象か。

中田教育長：市議会の答弁は参考として記載しているものであるので、パブリックコメントでいただいた市民の皆様からのご意見に対する市の考え方を示すに当たり、委員の皆様からご意見をいただきたい。

小紫市長：市民の皆様の教育への関心が非常に高く、考えさせられるご意見も多かった。パブリックコメントに対する返答については、質問されたご本人だけでなく、市のホームページで広く周知するという前提で、ご意見に対する市の考え方は良く考えて作成した。ご意見がないようなので、市の考え方はこのような形でまとめることとする。

・教育大綱の決定について

小紫市長：修正案のとおり修正したものを、生駒市の教育大綱として策定する。

(2) その他

今後のスケジュールについて、教育振興部真銅次長から説明
(質疑) なし

○閉会宣告

午前10時35分 閉会